

令和6年12月に4度目の認知度調査を実施した。認知率は19%で前年度(23%)と比較すると、やや減少したが、今年度の結果については、調査時点での情報発信等が一部限定的な状況であったことが一因と推測される。認知の浸透状況を詳細にみると男性若年層に顕著な浸透が見られた。

印象評価のうち「公共インフラとして必要なサービスだと思う」(Top1: 78%)が高水準であったことを踏まえ、今後一層社会に普及浸透するためには、認知に加えて内容理解の状況にも留意し、情報を得たい経路と実際の傾向を把握の上、引き続き関係機関と連携し、効率的かつ効果的な情報発信等を継続していく必要性を認識した。

調査概要

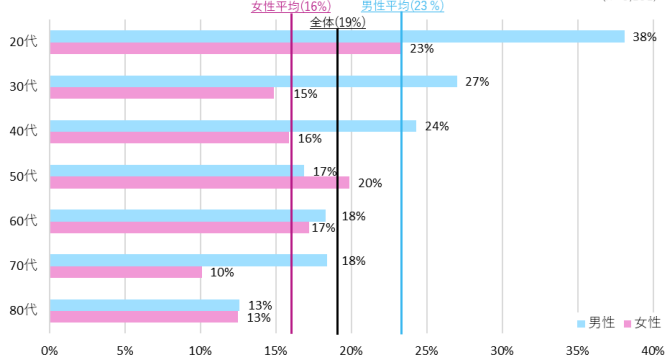
手法：インターネット調査
 地域：全国
 対象者：20～80代男女個人
 実施期間：令和6年12月19日～12月23日

サンプル数：合計5,191ss
 ※日本全国の人口構成比に合わせて回収
 ※自身もしくは親族が聴覚障害者等およびそれらに関与がある人は549人(全体の11%)

【認知度】男性若年層ほど認知が高い傾向

Q: あなたは電話リレーサービスをご存知ですか

<利用したことがある・知っている・見聞きしたことがあると回答した割合>※ (n=5,191)

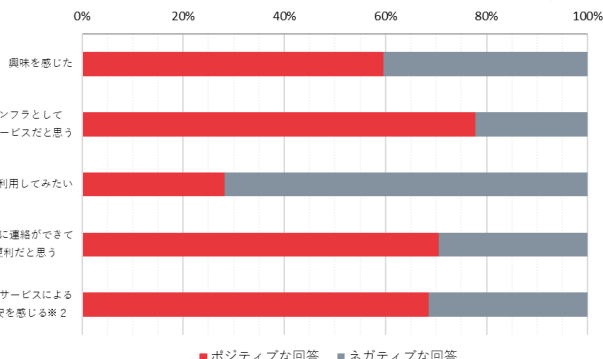


性別で見ると、男性23%/女性16%と男性の方が認知率が高く、特に男性若年層のスコアが高い傾向がみられた。

【印象】必要性等に高水準の評価

Q. 動画「つながる篇」をご覧になって、どのように感じましたか

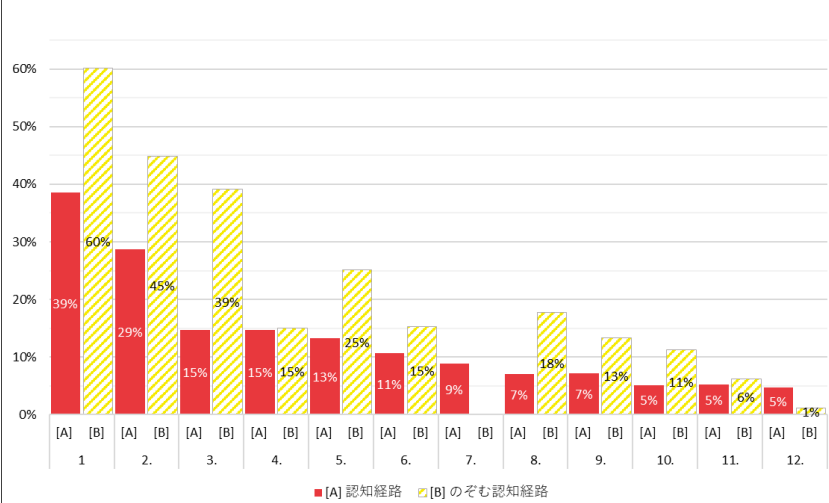
(n=5,191)



全体的に過半数以上が肯定的な印象を持つ層で、昨年度と同様に概ね高水準の評価が得られた。一方、利用意向との間に差がみられたが、サンプル数の89%が聴覚障害者等と関与がない層であることが影響していると考えられる。

【認知経路】「テレビ」と「インターネット」での情報提供が有用な傾向

Q. [A] 電話リレーサービスをどちらでお知りになりましたか
 [B] また、どのような媒体から電話リレーサービスの情報を得たいと思いますか



「認知経路」Top 3 は「情報を得たい(のぞむ)認知経路」結果と15pt以上の差がみられた。

●「のぞむ認知経路」と「認知経路」との差 (抜粋)

- ・公共機関からのお知らせ (+24pt)
- ・テレビ (+21pt)
- ・インターネット (+16pt)

※調査を実施した令和6年12月時点での主たる情報発信は「2.インターネット」であったため、令和7年1月以降に実施した交通広告および新聞広告掲載の直接的な関連はなし